

在宅医療連携拠点推進事業
中間報告

豊明市

豊明市の概況



- ・愛知県のほぼ中央に位置する。
- ・人口68,523人(28,112世帯)
うち、高齢者人口 15,830人
- ・高齢化率 **23.1%**(地域差あり)
- ・総人口は減少傾向で推移。
年少人口、生産年齢人口とも減少
する一方で、高齢者人口は増加。

■豊明市の保健・医療に関する社会資源

病院3(藤田保健衛生大学病院、桶狭間病院藤田こころケアセンター、豊明栄病院)
医療機関39、歯科医療機関39、薬局25、訪問看護3、訪問リハビリ3

■豊明市の介護・福祉に関する社会資源

地域包括支援センター2(委託)、特別養護老人ホーム3、老人保健施設2、特定施設2、
小規模多機能居宅介護1、認知症対応型共同生活介護3、居宅介護支援事業所10

在宅医療連携拠点推進事業
を活用した基盤準備

2013年

在宅医療連携拠点推進事業
を活用した基盤の整備

2014年

市を主体とした関係機関
地域との一体的な取り組みへ

豊明市における取組定着
他地域への展開

2023年

豊明市の現状

高齢化率の上昇
豊明団地を中心とする地域課題
地域医療・介護を担う慢性的な人材不足
回復期・慢性期の受け皿の不足
効率的な多職種連携体制の未確立 等

健康と生活、そして社会を創造する
ICT・ヒューマンネットワーク



豊明市の達成すべき政策目標

「地域完結型医療」と
地域包括ケアシステムの構築

一人でも元気で幸せに暮らすことのできる社会の実現

社会保障費(医療・福祉)の
適正化

多職種連携の課題
に対する解決策

- ◆地域包括ケア連絡協議会(仮称)・WGの開催
- ◆ケアマネ連絡会の開催
- ◆包括支援センター連絡会の開催
- ◆先進地視察

在宅医療従事者の
負担軽減の支援

- ◆市民・関係機関ニーズ調査の実施
- ◆ICTネットワークと見守りセンサー付機器を活用した高齢者安否確認・異常早期発見事業の実施
- ◆在宅医療支援事業の実施

効率的で質の高い医療提供のための多職種連携

- ◆地域ケア会議の実施推進
- ◆多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業の実施
- ◆ICTネットワーク「いきいき笑顔ネットワーク」の普及と活用

入院病床の確保及び家族の負担軽減に向けた取り組み

- ◆緊急レスパイトサービス事業の実施
- ◆藤田保健衛生大学病院との後方支援体制に関する協議

在宅医療に関する地域住民への普及啓発活動

- ◆地域包括ケアシンポジウムの開催
- ◆いきいき笑顔ネットワークポータルサイトによる市民啓発
- ◆広報誌の特集記事
- ◆市民向けリーフレット

既存ICT基盤

豊明市
東名古屋豊明市医師会
愛豊歯科医師会
日進東郷豊明薬剤師会

地域包括支援センター
訪問看護ステーション
藤田保健衛生大学病院
名古屋大学医学部附属病院

在宅医療・福祉統合ネットワーク
『いきいき笑顔ネットワーク』

ICT × 多職種連携



在宅療養者の支援のため、
医療・福祉関係者による
多職種連携ICTネットワーク

1 多職種連携の課題の抽出と解決策の検討

【平成25年度 実施内容】

- ◆各種会議・連絡会等の実施と意見交換
- ◆在宅医療連携・地域包括ケアシステムづくりの先進地(千葉県柏市)視察

会議名	内容	参加者／人数	回数
ケアマネ連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師研修 ・ケアマネ意見交換会 	近隣市町ケアマネ、包括、行政／約50名	1回
包括連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・各種事業検討 ・地域課題抽出と政策検討 	包括、行政／15名	3回
地域ケア会議	<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケース検討 ・地域課題抽出 	医療福祉関係機関、包括、行政／5～10名	1回
多職種人材育成研修プログラム検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携の課題抽出 ・研修プログラム検討 	地域の在宅医療介護を担う関係機関より選出／13名	3回
いきいき笑顔ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した在宅医療連携体制構築 ・いきいき笑顔ネットワーク運用に係る各種検討等 ・地域課題抽出 	地域の在宅医療介護を担う関係機関より選出	1回
<ul style="list-style-type: none"> ・連絡協議会 			1回
<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会 ・定例ミーティング 			3回

※回数は平成26年1～3月分を計上。

1 多職種連携の課題の抽出と解決策の検討

【平成25年度 実施まとめ】

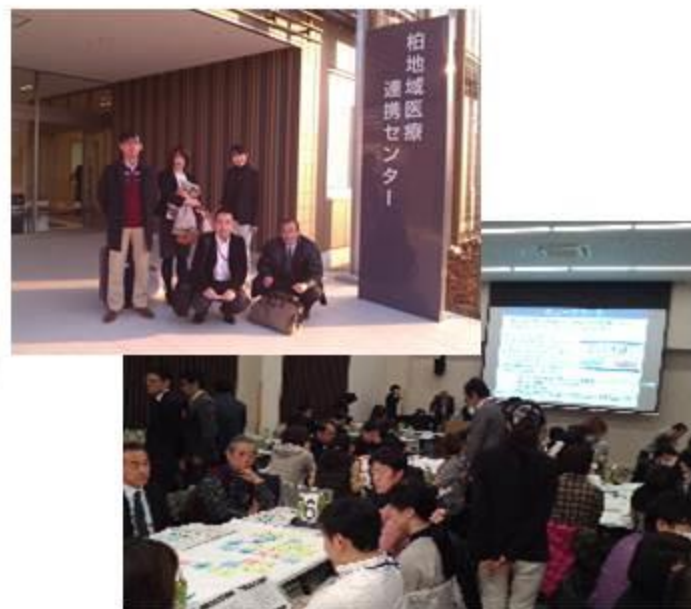
- ◆各種会議・連絡会等の実施と意見交換
- ◆在宅医療連携・地域包括ケアシステムづくりの先進地:千葉県柏市の視察

- 各種会議や連絡会等を重ねることが、顔の見える関係強化に繋がっている。
- 各職種とも、連携の必要性は感じている。しかし、具体的に何からどう動けば良いかわからない、または現状で不便さを感じにくいために、連携強化の必要性に駆られていないことも現状。

平成26年度取り組みの提言

各職種が在宅医療への共通認識を持ちながら相互理解を深め、在宅医療連携推進のための方向性を検討できるよう、

- ・会議体系及び会議構成メンバーの整理
- ・各会議での検討内容整理　　を行う。



2 在宅医療従事者の負担軽減の支援

【平成25年度 実施内容】

- ◆在宅医療福祉に関する市民ニーズ調査
(第6期介護保険計画策定に関するニーズ調査と併せて実施)

- ・方法／ 自記式シート(郵送にて回収)、H26.1月調査、回収率約60%
- ・有効回収数／ 高齢者本人調査:2,320票・家族介護者調査:197票

問: 今後、どのように介護を受けながら生活したいと思いますか

- 「ひとり(または夫婦)で、介護保険サービスを活用しながら生活したい」・・・27.8%
- 「子どもや親族と同居し、介護保険サービスを活用しながら生活したい」・・・23.9%
- 「子どもや親族と同居し、家族介護を中心に介護保険などのサービスは利用しないで生活したい」・・・11.6%

在宅を望む声が約6割

問: 自宅での療養を難しくする要因は何だと思いますか(複数回答可)

- 「家族に負担がかかること」・・・59.7%
- 「急変したときの医療体制が心配なこと」・・・23.7%
- 「自宅に往診してくれる医師や訪問看護ステーションが分からないこと」・・・14.4%
- 「病院から自宅へ退院する際の手続きや自宅での療養準備が大変なこと」・・・8.9%

情報不足からくる
市民の不安も多い

2 在宅医療従事者の負担軽減の支援

【平成25年度 実施まとめ】

- ◆在宅医療福祉に関する市民ニーズ調査
(第6期介護保険計画策定に関するニーズ調査と併せて実施)

- 市民ニーズをみると、やはり在宅生活の継続を望む声が多い。
- 一方で、市民が望む在宅生活の継続という選択を阻む要因として、家族への負担感を心配する声や、在宅医療を受ける場合の情報不足(急変時の対応も含む)からくる不安が挙げられている。

平成26年度取り組みの提言

- ・安心して在宅生活を継続するため取り組みとして、ICTネットワークと見守りセンサー付機器を活用した高齢者安否確認・異常発見事業と市民への普及啓発を実施する。
- ・また、在宅医療従事者に対するヒアリングを実施し、負担軽減策についても検討する。

3 効率的で質の高い医療提供のための多職種連携①

【平成25年度 実施内容】（愛知県委託事業）

◆多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業の開催

1 研修プログラム策定委員会・実務者会議

○委員構成：13名

東名古屋豊明市医師会(2)	ひまり訪問看護ステーション(1)
愛豊歯科医師会豊明支部(1)	前原外科・整形外科訪問リハビリテーション(1)
日進東郷豊明薬剤師会(1)	豊明市社会福祉協議会居宅介護支援事業所(1)
藤田保健衛生大学病院(2)	豊明市地域包括支援センター(2)
藤田保健衛生大学 地域包括中核センター(1)	事務局：豊明市高齢者福祉課(3)
桶狭間病院藤田こころケアセンター(1)	

○委員会開催：3回

○協議内容：

- ・多職種連携における課題抽出
- ・在宅医療連携に関する情報共有
- ・研修プログラムの検討と評価



3 効率的で質の高い医療提供のための多職種連携①

2 在宅チーム医療を担う人材育成研修会

○参加状況： 11職種／延120名

（職種：医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、歯科衛生士、ケアマネジャー 等）

○実施内容： 各日2～3講座／約2時間／3日間

* 各回ごとに、10～20分程度の交流会を実施。

日程	講義①	講義②	講義③
1日目	これからの地域医療が 目指すもの(Dr)	豊明市の高齢者を取りまく現状 と今後(行政)	介護保険制度の基礎知識 (主任CM/包括)
2日目	臨床からの回復/在宅で のリハビリケア(PT)	認知症・精神がいの理解と対応 (PSW)	
3日目	緩和ケアから在宅への 連携支援(Dr)	看取りの看護・介護(Ns)	療養の場の選択とソーシャル ワーク(MSW)

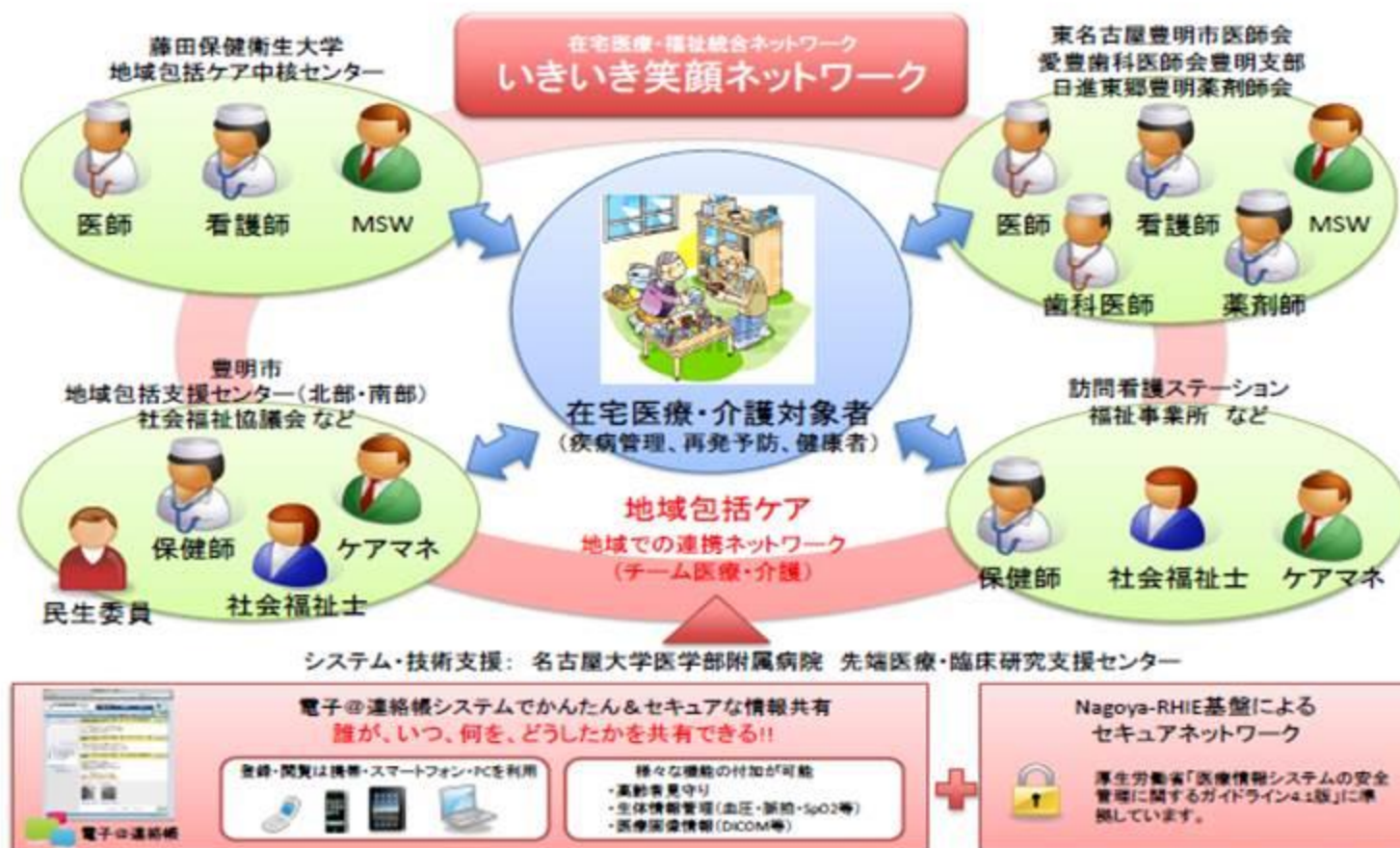


3 効率的で質の高い医療提供のための多職種連携②

【平成25年度 実施内容】

◆ ICTネットワーク「いきいき笑顔ネットワーク」の普及と活用促進

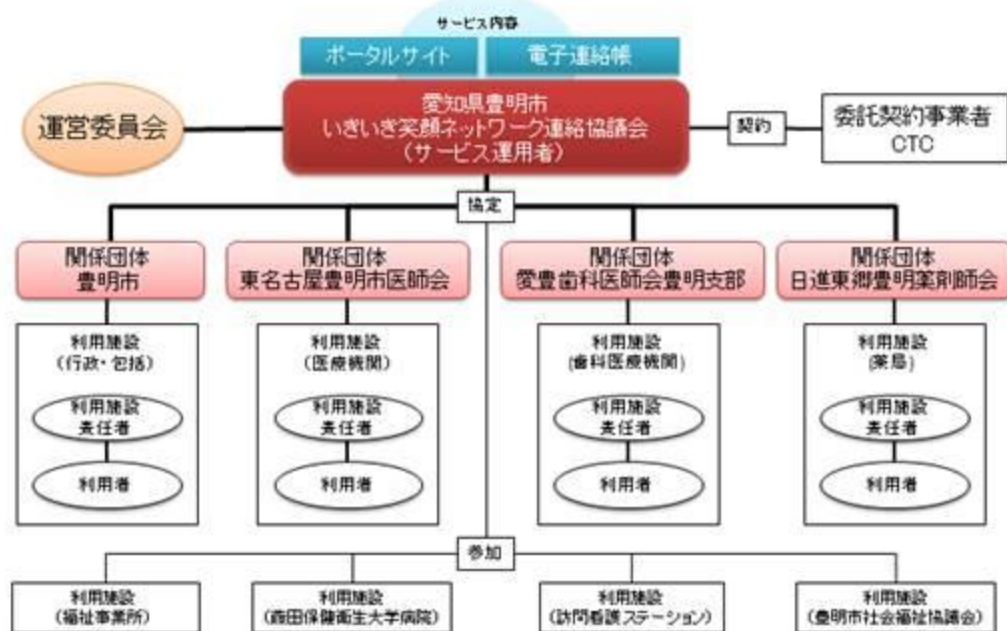
1 在宅医療・福祉統合ネットワーク「いきいき笑顔ネットワーク」概要



3 率的で質の高い医療提供のための多職種連携②

2 在宅医療・福祉統合ネットワーク「いきいき笑顔ネットワーク」運用体制

○平成25年9月に市・3師会協定を締結し、運用経費を含めネットワークの自立的運用体制が整備された。



いきいき笑顔ネットワーク連絡協議会 構成

平成25年 9月 5日現在

	氏名	所属	
1	牧 晴典	愛知県医師会社会福祉専門委員会委員	協議会長

協議会員は、いきいき笑顔ネットワーク利用規約第二章に定める利用施設責任者により構成される。

いきいき笑顔ネットワーク運営委員会 構成

平成25年 9月 5日現在

	氏名	所属	
1	牧 晴典	愛知県医師会社会福祉専門委員会委員	委員
2	隈部 孝男	東名古屋豊明市医師会会長	委員
3	生駒 善雄	東名古屋豊明市医師会在宅医療推進委員会委員	委員
4	高戸 竜一	東名古屋豊明市医師会代表	委員
5	松森 正起	愛豊歯科医師会豊明支部長	委員
6	三浦 英樹	愛豊歯科医師会豊明支部副支部長	委員
7	太田 満	豊明市薬剤師会会長	委員
8	森 道成	日進東郷豊明薬剤師会会長	委員
9	都築 晃	藤田保健衛生大学地域包括ケア中核センター代表	委員
10	松山 佐哉	香掛訪問看護ステーション代表	委員
11	山本 正幸	豊明市北部地域包括支援センター代表	委員
12	田中 貴教	豊明市南部地域包括支援センター代表	委員
13	原田 一也	豊明市健康福祉部長	委員
14	加藤 智子	豊明市健康推進課長	委員
15	浅田 利一	豊明市高齢者福祉課長	委員
16	水野 正明	名古屋大学医学部附属病院教授	オブザーバー
17	近藤 藤弘	中部テレコミュニケーション株式会社	オブザーバー

3 効率的で質の高い医療提供のための多職種連携②

3 いきいき笑顔ネットワーク普及と活用活性化のための取り組み

○登録・活用勉強会の開催

- ・居宅介護支援事業所等（2回）
- ・薬剤師会（1回）
- ・その他、要望に応じ実施（随時）



○いきいき笑顔ポータルサイト活用

- ・新規登録申請
- ・ネットワークログイン
- ・在宅医療連携に関する情報発信



- 市広報への在宅医療連携関連記事
掲載、ロゴステッカー、チラシ等による啓発



3 効率的で質の高い医療提供のための多職種連携②

【平成25年度 実施まとめ】

- ◆多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業の開催
- ◆ICTネットワーク「いきいき笑顔ネットワーク」の普及と活用

○「顔の見える関係の強化」+「ICTネットワークの普及」により、連携がよりスムーズになっている。

○研修会参加者からは、「交流会の時間をもっと多く持ちたい」「事例検討を多職種で行い、在宅医療連携の自分の役割を知りたい」といった前向きな意見が聞かれている。

○いきいき笑顔ネットワーク登録状況(H26.4現在)

- ・70医療福祉関係機関・120名が登録済み
- ・また、300名の患者がいきいき笑顔ネットワーク上に登録されている

平成26年度取り組みの提言

ニーズに応じた柔軟な多職種人材育成事業の実施と、さらなるICTネットワークの普及により、医療・福祉関係者間の相互の役割理解と連携が進むよう支援する

4 在宅医療に関する地域住民への普及啓発活動

【平成25年度 実施内容】

- ◆豊明市地域包括ケア講演会「在宅医療・福祉のこれから」開催
- ◆市広報誌への特集記事掲載

～地域包括ケア講演会 「在宅医療・福祉のこれから」～

- 日時： 平成26年2月8日(土)
- 会場： 豊明市文化会館 小ホール
- 参加者： 約130名
(市民、医療福祉関係者、行政職員等)
- 内容：

(第一部) 講演

講師： 牧 靖典 先生(いきいき笑顔ネットワーク連絡協議会長)

(第二部) シンポジウム

コーディネーター： 水野 正明 先生(名古屋大学医学部附属病院 総長補佐)

パネリスト： 石川 英明 市長(豊明市長)

隈部 泰男 先生(東名古屋豊明市医師会長)

松森 正起 先生(愛豊歯科医師会豊明支部長)

森 道成 先生(日進東郷豊明薬剤師会長)



4 在宅医療に関する地域住民への普及啓発活動

【平成25年度 実施まとめ】

- ◆豊明市地域包括ケア講演会「在宅医療・福祉のこれから」開催
- ◆市広報誌への特集記事掲載

- 市民にとって在宅生活の継続は望む形ではあるものの、実際に医療や介護が必要となった場合はそれを選択しにくい状況。その原因として、在宅で医療介護サービスを受けながら生活することへの不安(例:緊急時の対応など)がある。
- また、豊明市は市内及び近隣の医療福祉施設が充足した地域であり、市民意識としても「困った時は、病院や施設へ行く」という意識が強い。

平成26年度取り組みの提言

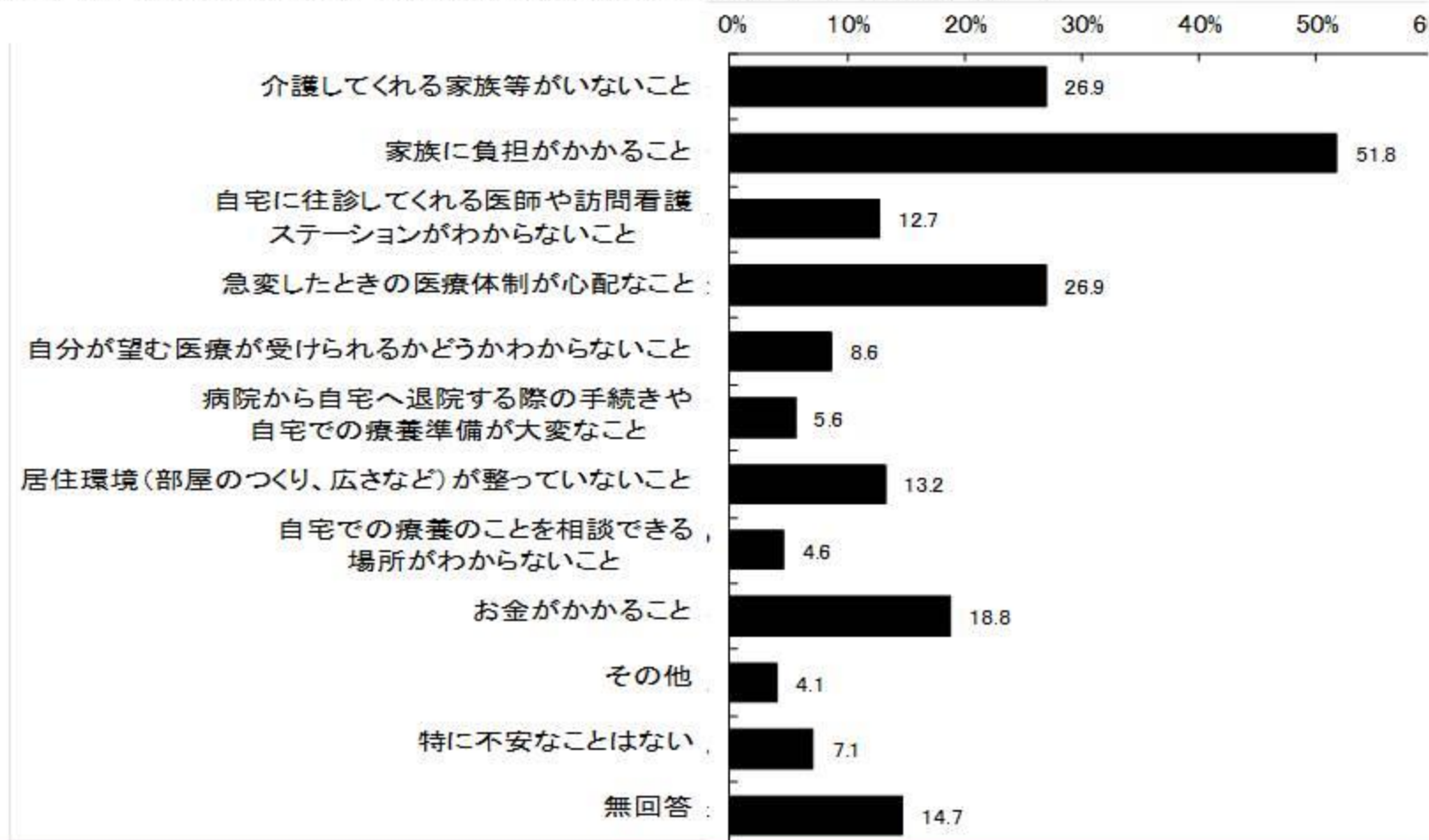
市民が、在宅医療とそれを支える多職種連携体制・ICTネットワークの仕組み等について知り、本人や家族にとってより良い療養の場を安心して選択できるよう普及啓発を行う。

5 入院病床の確保及び家族の負担軽減に向けた取組み

※今後の具体的取組みに向けて、地元病院・医療機関との協議をすすめる予定

■参考: 第6期介護保険計画策定に関するニーズ調査より

問: 自宅での療養を難しくする要因は何だと思いますか(複数回答可)



ご清聴ありがとうございました

豊明市